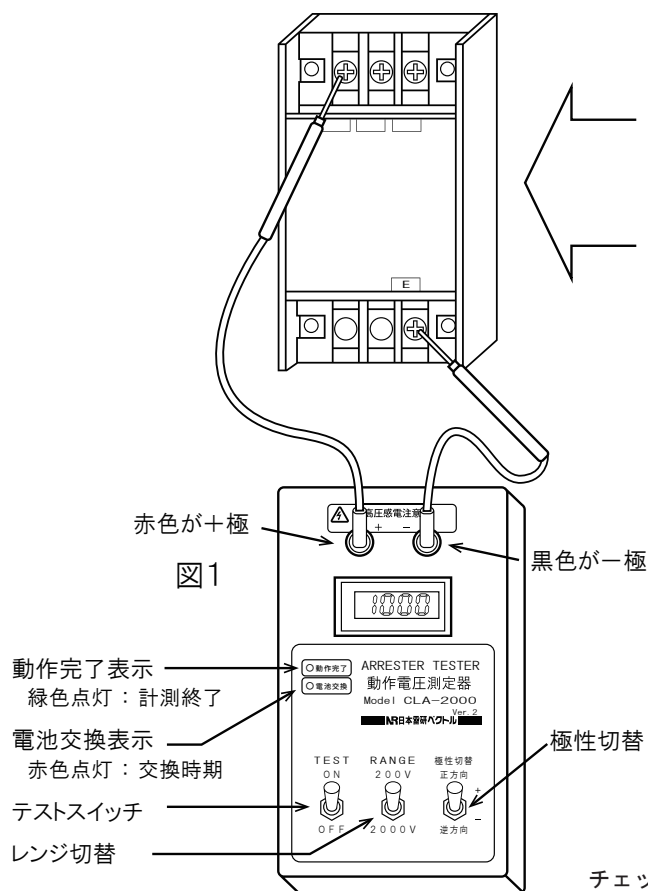


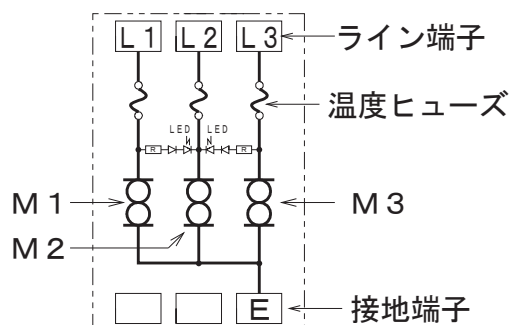
避雷器本体内部素子の点検方法は動作開始電圧（素子に1mAを流したときの電圧）を測定して判断します。

●端子配列と結線図

本体部



本体内部回路



M1-3: モリブデン素子

点検をおこなう前に・・・ご注意

- ① 安全のため開閉器（DS）を切り離して行ってください。
- ② 感電にご注意ください。
TESTスイッチONにしているとき、出力の電極を素手で触れないでください。
- ③ 新品交換待ちの場合
劣化であっても電源に支障がなければ、新品交換まで付け戻してください。交換までの雷サージ対策となります。
- ④ 試験回数につきまして
直流による方式に付2～3回程度で終了してください。劣化の原因になることもあります。

チェッカーの動作について

チェッカーCLA-2000は、1mA以下の電流制限つきです。
1mAを超えた時点で、数値をホールドして素子への電圧印加を停止します。
数値はTESTスイッチをOFFにするまで表示します。

●素子の良否判定方法

- ① チェッカーCLA-2000を図1のように接続します。
- ② 測定する端子間の動作電圧に合わせてRANGE（レンジ）を切り換えてください。
- ③ TESTスイッチをON側に投入してください。
- ④ 指示値が下表の範囲外の場合は、劣化（不良）と判定します。

<NR-3P避雷器>

	各素子	測定端子	端子符号 +極 -極	印加電圧 (レンジ)	確認内容 ※2	M○短絡時
※1	M1	L1-E 間	E-L1	DC2000V	DC900～1800V の範囲内であること	300V以下
	M2	L2-E 間	L2-E	DC2000V	DC900～1800V の範囲内であること	300V以下
※1	M3	L3-E 間	E-L3	DC2000V	DC900～1800V の範囲内であること	300V以下
	ランプテスト	L1-L2間	L1-L2	DC200V	点灯すればヒューズは切れていません。 ※2	—
	ランプテスト	L3-L2間	L3-L2	DC200V	点灯すればヒューズは切れていません。 ※2	—

※1 ランプ回路があるため極性を逆にする必要があります。極性切り替えを使用してもよい。

※2 出荷時の試験の範囲は900～1400VDC

※1 ランプ回路があるため極性を逆にする必要があります。

※2 範囲以下でも自復作用もあり支障なければ使用可能です。ただし、350V以下の場合は交換をお奨めします。